

卒業生初の理事長誕生を祝う

追手門学院 理事長
川原 俊明



川原理事長・田口会長：

本日は、よろしくお願いします。

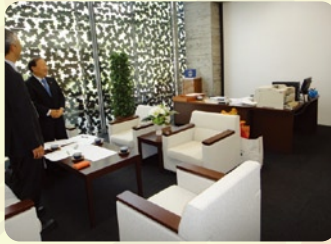
川原理事長：

さて、私、卒業生として初めて学校法人追手門学院の理事長に就任しました。山桜会という同窓会組織の枠を超えて、学院全体の運営に関わることになりました。私立学校法のもとで理事会主導体制を強化し、学院改革を徹底的に進めていきたいと思っています。大学改革を中心に追手門学院ブランドを高めていくこと、学院のステイクホルダー（利害関係者）である卒業生・保護者・学生・教職員と一体となり、追手門学院を発展させたいと考えています。

特に大学の思い切った改革が必要です。学生の募集力を強化し、就職力を高める。さらに大きな構想として、新キャンパスを確保し大学新学部を設置、茨木中高・大手前中高の再編を含めた新しい追手門学院を早急に作り上げたい。また、現在の幼稚園から大学院という総合学園から、さらに、認定こども園を設立し、0歳児からの人材育成体制の確立を理事会で決定しました。

さらに、理事会主導体制の一貫として理事長室をつくり、理事会決定事項の早期実施、企画立案体制の確立を図ることにしました。

学院としては、山桜会の同窓会活動を全面的にバックアップしたいと思っています。田口会長から、山桜会の今後の活動計画をお聞かせください。



理事長室

川原理事長：

山桜会はボランティアであり、限られた時間で活動していただいておりますので、学院がその活動をバックアップし、より正確で詳細なデータが把握できる協力体制を築きたいと思っています。

田口会長：

山桜会総会において40歳同窓会などを併設することで会員の参加率が向上すると考えています。

山桜会100周年に向けて

川原理事長：

山桜会の総会・新年会だけでなく、40歳あるいは還暦同窓会、さらに30歳同窓会も開催されるとのことで、個々の同窓会の開催が、山桜会の活性化に繋がると考えます。

山桜会会員の裾野を広げていただくことを期待しています。また、山桜会も5年後に100周年を迎えられることになります。卒業生のシンボルとして同窓会の方々が気楽に集まれる同窓会館の建設も視野に入れていただければよい期待しています。

田口会長：

100周年記念事業は、今からのことですが、準備期間を設け計画していきます。多くの会員と一緒に祝える記念式典を考えていきます。



川原理事長：

同窓会という観点でいうと、現在、小・中・高と大学の同窓会が別個にありますが、二つの校友会の連携強化が非常に大きな課題と考えています。

田口会長：

大学校友会とは相互に行事に参加する体制をとりたいと考えています。

川原理事長：

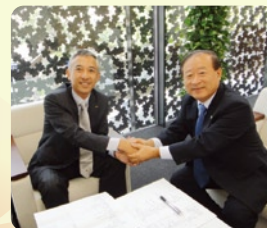
また、同窓会組織のない幼稚園を山桜会に取り込むことも一つの課題だと考えます。

田口会長：

幼稚園に対してもしっかりアピールしていきます。

川原理事長：

現在、幼稚園に同窓会組織はありませんが、山桜会加入も視野に入れていただき、幼稚園から大学まですべてが追手門の仲間であると認識できるようにしていただきたいと思います。



ぜひ、山桜会創立100周年に向けて、ますます頑張ってくださいと思います。

川原理事長・田口会長：
ありがとうございました。

山桜会活動計画

田口会長：

現在、山桜会会員の中で、住所不明者が9千人程度おられます。これを調査して、できるだけ多くの会員が山桜会の活動に参加していただけるようにしたいと思っています。



追手門学院大学1号館

川原理事長：

住所不明者など卒業生の実数把握は同窓会組織にとって大事なことです。それは学院においても同様です。理事長室において、卒業生のデータを山桜会とともに共有したい。そして学院として、卒業生が学院の人的財産であるという観点からデータ補足を共同管理したいと思っています。

田口会長：

卒業時点での住所を管理し、移動先の住所を把握できるよう協力体制をとれば、双方の情報交換がスムーズにできると考えます。

対談日時：2011年10月3日

対談場所：追手門学院大学1号館 理事長室